

分類	主な意見の概要	事業者の見解
事業計画 (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> ・赤土対策に効果があるか疑問。 ・県の赤土流出防止工法は本当に有効か。 ・赤土流出防止策は、濁水が湧き出てくる恐れがあることや、凝集装置の排水を基準以下に本当に落とせるのか。 ・凝集装置を使い排水を基準値以下に落とすことができるか疑問。 ・赤土流出防止対策の部分は、実際の降雨条件で凝集沈殿によって25mg/L以下の濁りになるなどは願望であっても実際規模の実例はない。 ・赤土流出のメカニズムと防止法の調査を行うことを方法書に明記すること。 ・想定を越える事態が予想され、赤土の流出防止工法は、そう簡単にはいかない。 ・本事業により、白保の海が深刻な被害を受けるのは一目瞭然。本準備書に書かれてあるような対策で赤土が防げるものなら、赤土問題は生じていないであろう。 ・石垣の土壌の性質より、小手先の流出防止策で事足りると思われない。 ・「県の赤土流出防止策」は全く機能しない。 ・県の赤土防止工法では、海は死んでしまう。 ・サンゴ礁海域の現状を見る限り、新石垣空港建設事業のみが赤土流出を極力少なくできる証明ない。 ・赤土流出防止策は裏付けもなく机上の理論で信頼するわけにはいかない。 ・赤土の流出防止法は現実性がない上100%の流出防止できるという保証もない。 ・赤土の防止策は成功モデルがない。 ・赤土流出防止対策など十分配慮されている。 ・計画ではきれいな水にして戻すとあるが現在の工法でうまくいくか疑問。 ・赤土の濁水を、水中浸透させて自然浄化する、あるいは調整池を造って凝集剤の力で浄化するとはいつているが、実工事例がないほか、実証試験もないので信頼することができない。 ・実験例が無い赤土流出防止工法で世界的に貴重なサンゴは守れるのか。 ・赤土の流出防止工法が成功する根拠をしめして欲しい、成功事例や実験検証もない工法に、自然の未来は託せない。 ・濁水の地下浸透についても、実例のデータは全く無い。 ・透水性が高いので赤土汚染は発生しないと行っているが成功モデルが少ない。 ・赤土の海への流入防止策について、濁水がそのまま海に流れ込むリスクはないなどといえる根拠はない。 ・濁水の全量地下浸透を前提で予測、評価しているが濁水処理対策を検証し海域への濁水流出の予測をやり直す必要がある。 ・非科学的な土砂流出の考察。濁水を濾過する性能や、地下浸透の実測値も示さないままに「赤土の堆積は現況から変化しない」と結論付けているが、根拠を示すべき。 	<p>赤土等流出防止対策技術指針(案)に準拠し、地域特性に配慮した赤土等流出防止対策を検討しております。</p> <p>本事業の発生源対策や濁水処理対策は、空港やダム等が通常実施している工法であり、例えば、久米島空港等で実績があります。</p> <p>なお、沖縄県赤土等流出防止条例施行規則では2年確率降雨強度を最低条件としていますが、本事業では工期約7年を考慮して10年確率降雨強度で検討し、排水濃度については200mg/L以下の基準に対し、25mg/L以下の自主管理を決定し、環境に配慮した対策としています。</p>